

競技者必携 改訂事項について

技術委員会

①背番号の規制緩和について

●連盟規程細則 第3条 3 (2)

背番号は監督30番、コーチ29番、28番、主将10番とし、選手は0番から27番とする。

↓

背番号は監督30番、コーチ29番、28番、主将10番とし、選手は0番から99番とする

●連盟規程細則 第12条 5 (3)(4)

(3) 背番号は0番から30番までとし、参加申込書に記載されている選手は全員必ずつけなければならない。

(4) 監督30番、主将10番、少年部、学童部のコーチは29番、28番とする。また、一般チームでコーチをおく場合も29番、28番とする。

↓

(3) 背番号は0番から99番までとし、参加申込書に記載されている選手は全員必ずつけなければならない。

(4) すべての登録チームで、背番号は、監督30番、主将10番、コーチは29番、28番とする。

②スパイクに関する規制撤廃について

●連盟規程細則 第12条 5 (8)

(8) スパイクは全員、同色のものでなければならない。ただし、ワンポイントの商標については同色とみなす。また、学童部は、金属製金具のついたスパイクを使用することはできない。

↓

~~(8) スパイクは全員、同色のものでなければならない。ただし、ワンポイントの商標については同色とみなす。また、学童部は、金属製金具のついたスパイクを使用することはできない。~~

③選手登録を背番号順に記載する

根拠

- (1) 打順表と登録原簿との読み合わせを行う上で、背番号順にすることにより見やすく、かつ照合が容易でスムーズに行われる。また、チームの背番号の書き間違いを無くする効果もあると思われる。
- (2) 現状は、投手・捕手等のポジション順に、かつ若番順に記入しているが、試合では複数の守備をこなすため、ポジション順にすることが重要な要素ではなくなった。
- (3) 背番号が0番から99番までの場合、数字が大きくなればなるほど、若番順に整理されている方が確認しやすくなる。

④サングラスについて

サングラスは、大会本部の承認なしに使用できる。ただし、ミラーレンズの使用を禁止する。

↓

「ただし」以下を削除する。

根拠

- (1) ミラーレンズサングラス(以下「ミラーレンズ」という)を着用しても、他の選手に影響を及ぼすことはないため使用を認めるものである。ただし、投手の使用については、打者への配慮から、現状どおりサングラスを禁止するものである。
- (2) 眼球を紫外線から保護するという観点からすれば、ミラーレンズの方が優れており、健康上の理由からしても学童から一般まで、形・色等を問わず使用を認めるものである。